

全国協議会 ニュース

2026年10月1日発行 第410号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3 階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和
https://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金 申請要件の収入上限を緩和

「佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金（佐藤きち子基金）」は、2026年9月1日（火）受け付け分から収入要件を緩和しました。最低賃金が増え、急激な物価上昇に収入が追いつかない状況を鑑み行ったものです。

佐藤きち子基金は、移植治療をすすめても経済的に厳しく治療に踏み切れない患者さんを支援する基金です。高額療養費制度で月々の医療費の上

限額は決まっていますが造血幹細胞移植には特有の費用が別にかかります。非血縁者からの移植では造血幹細胞の運搬費、骨髓バンクを介した移植では患

者負担金等です。佐藤きち子基金では医療費を含むそれらの費用を30万円まで助成しています。

申請に当たっては収入上限を設けており、今回は特に子育て世代のご家庭が申請しやすいよう改定しました。

収入上限は世帯人数や年齢により異なります。全国協議会のホームページで確認いただけます。

この基金は1995年9月の設立以来400人以上の方に総額1億円を超える支援をしてきました。昨年度から申請も急増しています。この基金の存続のためご支援をお願いします。

造血幹細胞移植患者のワクチン再接種公費助成制度創設の要望について



9月4日（金）、自見はなこ参議院議員（超党派骨髓・さい帯血バンク・献血推進議員連盟事務局長）事務所を、大谷貴子副会長・若木換事務局長兼務理事、鈴木敏生理事の3人で訪問し、掲題の件に関する「国による公費助成制度創設」を要望しました。

造血幹細胞移植（特に同種移植）を受けた患者さんは、移植前（特に乳幼児時期）に受けた定期予防接種で獲得した免疫が、多くの場合治療により消失します。よって、医師の判断により必要なワクチンを再接種することが学会ガイドラインで推奨されています。しかし、再接種は予防接種法上「任意接種」として扱われ、費用は全額自己負担となります。必要とされる予防接種を全て自費で再接種すると総額では十数万円にもなり、治療後の長期療養・就労困難・家計負担が重なる患

者・家族にとっては大きな経済的障壁となっています。

なお、訪問に際しては、福田隆浩先生（国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科長）にも同席いただき、専門医からエビデンス等についてご紹介いただくなど必要性について強くサポートしていただきました。

自見事務局長からは、本件の必要性を十分にご理解いただき「議連事務局長としても、移植後の患者さんが感染リスク等の不安を抱えながらの生活を送らなくても良いようにバックアップしたい」旨のコメントをいただきました。

造血幹細胞移植後のワクチン再接種については、2018年、2020年にも厚生労働省の予防接種・ワクチン分科会等で検討されてきたものの、対象者や対象ワクチン等の整理などの課題もあり、制度創設には至りませんでした。福田先生は、これまでもワクチンに関する研究に取り組まれており、2024年度からは厚生労働省予防接種課からの依頼を受け、研究班として全国の移植施設への調査やエビデンス整理を進めてられました。今回、患者側の立

場から全国の自治体の助成実態を調査し、当協議会から要望書を提出したことには「とても強い後押しになる」とのコメントをいただきました。

今までの福田先生の働き掛けに加えて当協議会からの要望により、制度創設の実現に少しでも近づけるよう、引き続き関連部署や支援者への対応を継続してまいります。

骨髓バンクとさい帯血バンクの最新情報

● THE BANK NOW (速報値) ●

骨髓バンク				
■ 日本骨髓バンクの現状(2026年8月末現在)				
	7月	8月	現在数	累計数
ドナー登録者数	4,168	2,045	565,196	1,038,954
患者登録者数	207	193	1,733	74,398
採取数	骨髓	40	56	—
	末梢血幹細胞	52	47	—
	合計	92	103	—
				31,002

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■ 8月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／441人、献血併行型集団登録会／1,572人、集団登録会／16人、その他／16人

■ 8月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,732人／20代 102,017人／30代 137,955人
40代 203,825人／50代 116,667人

■ 8月の20歳未満の登録者 155人

注) 数値は速報値のため訂正する場合があります。

《MONTHLY JMDP(9月15日発行)より抜粋》

さい帯血バンク

■ さい帯血保存公開本数 11,037本

(2025年8月末現在、国内6バンクの合計)

■ 8月の移植件数 125件 (累計27,424件)

《日本赤十字社 骨髓バンク・さい帯血バンク ポータルサイトより抜粋》

厚生労働省令和9年度の概算要求概要

厚生労働省は、8月末に令和9年度移植医療対策推進の概算要求を公表しました。令和8年度当初予算を5億円上回る29億円が要求されました。事業の概要と予算要求額は以下のとおりです。

令和9年度概算要求 造血幹細胞移植対策の推進

29億円(24億円) (括弧内は前年度当初予算額)

①骨髄移植対策事業費(骨髄バンク運営費) 6.6億円(5.1億円)

骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者(骨髄バンク)の安定的な運営を引き続き支援するとともに、新たな骨髄バンクドナーの登録方法であるオンライン登録の導入に向けた検討を行う。

②骨髄データバンク登録費

5.9億円(5.8億円)

骨髄移植及び末梢血幹細胞移植をする際に必要な骨髄等ドナーのHLA(白血球の型)の検査及びデータ登録・管

理体制の確保を図る。

③臍帯血移植対策事業費(臍帯血バンク運営費) 8.5億円(6.6億円)

臍帯血の採取施設支援や、妊婦とその家族への普及啓発により臍帯血採取数等の増加を図るとともに、次世代HLA型検査を導入することで、臍帯血移植における移植成績の向上を図る。加えて、臍帯血提供者の問診票のオンライン化など業務効率化を進めることで、臍帯血供給事業者(臍帯血バンク)の安定的な運営を引き続き支援する。

④造血幹細胞移植患者・ドナー情報登録支援事業 1.5億円(50百万円)

造血幹細胞移植の治療成績や安全性の向上につなげるため、患者の治療内容やドナーの健康情報等を収集・分析するシステムの更改を進め、データ処理・解析を行う。

⑤造血幹細胞提供支援機関事業

2.4億円(2.1億円)

骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者及び臍帯血供給事業者に対する支援を行う支援機関(日本赤十字社)の安定的な運営を引き続き支援する。

⑥造血幹細胞移植医療体制整備事業

4.1億円(3.8億円)

移植後も身近な地域で生活の質を保ち、安心して暮らしを続けていけるよう、引き続き、各地域における造血幹細胞移植推進拠点病院の体制整備を図る。

9月は国際小児がん啓発月間 国立がん研究センターでイベント開催



佐賀県鳥栖市のNPO法人小児がん・まごころ機構は、9月5日(土)、国立がん研究センターにおいて、「ゴールドセプテンバーキャンペーン」のイベントを開催しました。ゴールドセプテンバーキャンペーンとは、毎年9月が国際的な小児がん啓発月間であるため、小児がんのシンボルマークであるゴールドリボンになぞらえて各地でイベントを行うものです。小児がん患者である子どもたちやそのご家族、そして地域の人々が笑顔で交流できる場を作りたいという思いで開催でした。

体験型プログラムとして、ロビーでは、広島大学の佐伯勇先生のご協力による「はたらく細胞」のVR体験会や、万一口に入っても安全な「お野菜クレヨン」を使った体験会を実施しました。また会議室では、体を動かしてリフレッシュできるマルチスポーツの体験会を開きました。

第1部ではご来賓の自見はな子参議院議員のご挨拶に始まり、厚生労働省健康生活衛生局のご挨拶に続き、NPO法人小児がん・まごころ機構理事長による基調報告、そしてVR体験会を開催された佐伯先生による講演と続けました。また心温まる記念合唱ステージとして、視覚に障害を持つ子どもたちで構成された「いちご合唱団」の皆さんと、シンガーソングライターのことりゆきさんによる合同合唱が披露されました。透き通るような美しい歌声と温かなハーモニーが会場いっぱいに響き渡り、聴く人すべての心を優しく包み込んでいきました。会場全体が穏やかで感動的なひとときを共有することができました。

企画段階では「子どもたちの笑顔が見たい」という思いで準備を進めていたのですが、当日会場では予想以上に大人の皆さんが足を運んでくださいました。大人の方々が目を輝かせながらVRゴーグルを装着して体内の仕組みを学んだり、お野菜クレヨンを手に取り楽しそうに絵を描いたり、子ども向けのプログラムとして用意したものではありませんでしたが、大人の皆さんが童心に帰って

参加してくださったことで、小児がんや体内のメカニズムといった専門的なテーマにも自然な形で関心を持っていただく素晴らしい機会となりました。

続く第2部では、小児医療の支援における重要な課題である「こどもホスピス」をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。重い病気を抱える子どもたちとその家族が、自分らしく穏やかに過ごすための場所である「こどもホスピス」が、いま日本の地域社会においてどれほど求められているか、どう繋がっていくか、熱心な発表と議論が繰り広げられました。客席の参加者の皆さんも真剣に耳を傾けており、この切実な支援の重要性が深く心に響いたようでした。

今回のイベントは、参加者の深い関心と深い学びへ、そして「こどもホスピス」という重要な支援への共感へと繋がっていきました。世代を超えて多くの人々が集い、共に学び、心を通わせたこの一日は、小児がん支援の未来に向けた大きな一歩となったと感じています。そしてこれからも小児がんの啓発活動と支援の輪をより一層広げていきたいと切に願っています。

(NPO法人小児がん・まごころ機構 内藤真澄)

造血幹細胞移植での欧州等滞在歴及びプラセンタ使用歴に関する制限を撤廃 — 献血での制限撤廃を受け基準を見直し

厚生労働省の厚生科学審議会造血幹細胞移植委員会は、8月27日の会議で、欧州等への滞在歴に基づく造血幹細胞移植制限を撤廃することを承認しました。

これは、今年1月14日の同省薬事審議会血液事業部会安全技術調査会で、欧州等への滞在歴に基づく献血制限を撤廃することが承認されたことを受けたものです。

見直しの背景には、1999年から開始された献血制限のきっかけとなった変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）について、近年英国及び日本国内で新たな発生が確認されていない

ことや、同省の研究班によるリスク評価において、現在ではこの制限を撤廃した場合であっても、これによってvCJD患者が増加することはないと結論付けられたこと、欧米等で制限撤廃が広がっていることがあげられています。

また、これに併せて、2006年から開始されたヒト胎盤エキス（プラセンタ）注射剤使用歴による制限も、献血及び造血幹細胞移植とともに撤廃されます。

現在、日本骨髄バンクのチャンス、ギフトオブライフにこれらの制限に関する記載はなく、また、ドナー登録会

説明員マニュアルにも記載はありませんが、公開されているドナー適格性判定基準にvCJDの制限について記載があります。

今後の予定としては、献血制限の撤廃と時期を合わせて造血幹細胞移植における制限に関する通知の改正が行われる予定になっています。献血の場合、今年1月の調査会での承認から10月1日の運用開始まで8か月以上かかっていることを踏まえると、造血幹細胞移植で制限撤廃の運用が開始されるのはもう少し先になりそうです。

（注）変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）とは、牛海綿状脳症（BSE）に由来する異常プリオンがBSE牛から人に伝播することで発症すると考えられる脳神経疾患で、昭和60年代以降に英国を中心として発生した牛海綿状脳症（BSE）の流行に伴い、献血制限開始のきっかけとなった。

全国協議会 顧問紹介



全国協議会
顧問
伊賀 保夫
(いが やすお)

この度、全国骨髄バンク推進連絡協議会の顧問を拝命いたしました。これまで企業経営に携わる一方、ライオンズクラブでは地区ガバナー（東京）、協議会議長（南関東）を務め、奉仕活動の推進と組織運営に取り組んでまいりました。これまでの活動を通じて築いてきた全国各地の仲間とのネットワークに加え、企業経営や議員活動で得た経験も生かし、ライオンズクラブの奉仕活動と骨髄バンク運動をつなぐ架け橋となることが、私の役割と考えております。

一人でも多くの患者さんご家族に希望を届けられるよう、ドナー登録や骨髄バンクへの理解を広げ、皆さまと力を合わせて活動の輪を全国へ広げてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

〈プロフィール〉
早稲田大学教育学部 卒業／ボストン大学 修士課程
(Master of Science) 修了／藤井ギャラリー株式会社 代表取締役／元目黒区議会議員

骨髄移植を経て再びコートへ——挑戦を続けるバスケットボール選手の歩み



私は小学生2年から母の影響でバスケットボールを始めました。

高校では全国大会ベスト16まで進出、国体選手にも選出され、大学でもバスケットボールを続け、卒業時に複数のプロチームからオファーを受けましたが、プロの世界へは進まず広告代理店へ就職しました。

社会人3年目の25歳の時、繁忙期に体調不良が3カ月続き、大きな病院で受診したところ、急性骨髄性白血病と診断されました。

半年の抗がん剤治療で一時的に回復しましたが1年で再発、その後抗がん剤治療を繰り返し、骨髄バンクを介し27歳の時、骨髄移植を受けました。

入院中、Bリーグというバスケットボールのプロリーグが発足し、高校・大学時代の同級生やライバルたちがプロの世界で活躍している姿への羨望から、移植後は自宅療養中からリハビリも兼ねてバスケットボールを再開しました。

約2年のリハビリ・トレーニングを経て、5人制の社会人バスケットボールの大会で全国2位となり、その後3人制バスケットボールと出会い、すぐに全国大会への切符を獲得しました。

3人制バスケットボールのプロリーグからオファーを受け、新潟県へ移住し、新潟県で骨髄バンクのボランティア活動を開始しました。

3人制バスケットボールでは国内トップリーグ、韓国やオーストラリアでの国際大会も経験しました。

現在は、3人制バスケットボール選手としてコートで戦う傍ら、3人制バスケットボールのコーチ業や、企業や小中学生に向け自身のがん経験を次世代へ繋ぐ講演活動を行っています。

骨髄バンク登録説明員としてのボランティア活動も継続的に行っています。

また、骨髄バンクボランティア（血液疾患）だけではなく、全がんに対するボランティアをするべく、全がんに対するチャリティーウォークイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン いばらき」を実行委員長として2025年に発足させ、自身ががんサバイバーでありながら挑み続け、病と戦う人々に寄り添う啓発活動を続けています。

（リレー・フォー・ライフ・ジャパン いばらき
実行委員長 松岡一成）



東京

『骨髄バンクチャリティ麻雀大会 2026 in 東京』開催



8月23日(日)、東京・新橋の「新雀荘」において、「ジェイリースプレゼンツ 骨髄バンクチャリティ麻雀大会 2026 in 東京」を開催しました。

この大会は、麻雀を楽しみながら骨髄バンクへの理解を深め、ドナー登録の大切さを伝え、血液疾患と闘う患者・家族への支援につなげることを目的に、毎年開催しているチャリティイ

ベントです。2005年に始まり、今回で20年以上の歩みとなりました。

今年も全国各地から多くの方にお申し込みをいただき、最終的には約130名の応募が寄せられました。会場では麻雀を楽しんでいただくとともに、チャリティオークションや募金にも多くの皆さまからご協力いただきました。

大会当日の未明には関東地方で地震が発生し鉄道の運行に影響が出るなど開催が危ぶまれる状況、また、体調不良などによるキャンセルもありましたが、参加者、スタッフ、協賛企業、プロ雀士の皆さまのご協力により、無事に大会を開催することができました。

チャリティオークションでは約40万円、会場で寄せられた募金と合わせて、総額60万円を超えるご支援をいただくことができました。皆さまからお預かりした大切な募金は、骨髄バンクの普及啓発や患者支援に取り組む全国骨髄バンク推進連絡協議会の加盟団体へ寄付させていただきます。

私自身、かつて白血病を患い、骨髄移植によって命を救っていただいた経験があります。だからこそ、一人でも多くの方に骨髄バンクやドナー登録について知っていただきたいという思いを持っています。

「麻雀」という身近なものをきっかけに、人と人がつながり、命について考える機会をつくる。この大会がこれからもそんな場であり続けられるよう、支えてくださる皆さまとともに活動を続けていきたいと思っています。

ご参加いただいた皆さま、大会を支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。



(骨髄バンクチャリティ麻雀大会実行委員会 事務局長 ルーラー山口)

神奈川

インターネットラジオ番組 ゆめのたね放送局 「異空間クロストーク」出演



昨年から地元相模原市で、健康づくり普及員のボランティアを始めたのをご縁に、あるネットワークにご紹介いただき、ラジオ出演の機会をいただきました。

「ゆめのたね」という「ご縁」「応援」「貢献」を「愛言葉」に構成されているインターネットラジオ放送局内の番組です。

数日前に簡単なズーム打ち合わせをしました。収録時間の都合上、録り直しはできません。知らないことを聞かれたらどうしようかな～などと、ちょっぴりドキドキしながらも、どこかワクワクした30分一発勝負でした。

パーソナリティさんは、ご自身の疑問を中心に質問をし、その答えにさまざまな反応をしてくださり、おしゃべりを楽しんでいるような雰囲気が進みました。

私の病気のこと、この活動に至る経緯、ボランティアを通じてたくさんのお話を聞いたことなど話は尽きず、収録が終わった途端に、もっとお話を聞きたいですとリクエストをいただき、急遽もう一回分の収録をすることになりました。

ドナー登録をできる場所、登録方法、適合した時に都合が悪かったら？ 末梢血幹細胞提供ってなに？ 説明員として、

どれだけ繰り返し話してきたかわからないことばかりですが、世の中の大半の人には伝わっていないんだな……と、自分のちっぽけさを突きつけられた気がしました。何の関連性もないところからの普及啓発は私の目標の一つでもあり「まずは知ること」の大切さを伝えてくださったパーソナリティさんや、このご縁をくださった方々に感謝いたします。ドナー体験者のお話も聞きたいとのお土産をいただけてきました。

(神奈川骨髄移植を考える会 小石川知子)

(ON AIRは8月17日(月)、9月7日(月))

心からのご寄付に感謝申し上げます ●8月21日～9月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般	匿名	現金	1,000 円	●つながる募金		
株式会社サカタのタネ	●募金箱	株式会社クスリのアオキ		現金	4,200 円	
現金 250,000 円		現金 3,646,632 円		●キモチと。		
株式会社ゼロナビスパイル		株式会社マルト商事		現金	9 円	
現金 100,000 円		現金 35,012 円		●マンスリーサポート		
オークランド観光開発株式会社		株式会社カンセキ西川田店		現金	89,000 円	
松永 尚忠 現金 30,000 円		現金 6,835 円				
藤波 敬子 現金 10,000 円						

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655 郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。